おくすりをみんなで楽しく知ろうプロジェクトⅡ

提案団体：薬学部学生
代 表 者：薬学科　４年　北川　俊一
顧　　問：薬学科　准教授　三宅　勝志

実施計画

パートナー：呉市立横路小学校
実 施 期 間：2009年５月15日～2010年２月10日
奨 励 金 額：72,500円
活 動 目 的：地域貢献として自分達が学んできた、くすりについての知識を伝えることで薬と健康に対する個人の意識を高める。
達 成 目 標：くすりについて知ってもらうことにより、くすりの正しい使い方を広め、健康維持に対しての意識を高めてもらう。
計 画 概 要：呉地区の小学校に訪問し、くすりの適正使用に関するクイズや実験をすることにより、くすりについての知識を深める。
予 測 効 果：広島国際大学学生と小学生の交流の場になると共に、人々の健康意識の向上につながり地域貢献の一端を担うと考えられます。学生が考え児童達に教えることにより、学生の自主性及びプレゼンテーション能力を高める。

活動・成果報告

今回の「おくすりをみんなで楽しく知ろうプロジェクトⅡ」では大きく分けて５つのことを行いました。

１．小学校の保健体育で教えられている［健康の３カ条］の復習を行いました。その内容は、「運動する」、「しっかり睡眠をとる」、「バランスのとれた食事をとる」の３つです。

２．手の汚染を調べるキットを使い、手を洗う前と洗った後では、手の汚染具合はどう違うかを児童たちに見せながら一般細菌について説明をしました。児童たちは、目の前にあるキットを興味深く見ながら真剣に話を聞いてくれていました。

３．手洗いの実験では、児童たちの手に蛍光塗料を塗って手を洗ってもらう実験を行った。十分に洗えていないところだけが白色に光るという実験です。どの児童たちも興味を持ち、楽しそうに実験をしていた様子でした。この実験では、児童たちは手のどこが十分に洗えていないのか、どのくらい洗えば手がきれいになるのかなどを学べたと思います。

4．薬の相互作用を見る実験では、薬（イソジン）に飲み物を混ぜ色の変化を見る実験を行った。薬に混ぜる飲み物の種類を変えることにより、水に薬（イソジン）を入れる時と比べ色が変化する。飲み物の成分により薬（イソジン）の作用が変化する為、水で飲むことが一番相互作用は低いということを教えると、児童たちはなぜ水で飲むのが良いのかということをわかってくれた。

5．くすりを飲む時に大事な「７つの約束」を行い、薬を飲むときにはこの約束を守ってもらうことを児童たちと約束し合いました。

①．毎日決まった時間にくすりを飲みます。

②．くすりを飲む量を守ります。

③．病気が治ったと思っても決められた日までくすりを飲み続けます。

④．他の人からもらってくすりを飲んだりしません。

⑤．他の人に自分のくすりをあげたりしません。

⑥．前の病気の時にもらったくすりは使いません。

⑦．くすりはいつもきちんと整理して保管します。

今回の「おくすりをみんなで楽しく知ろうプロジェクトⅡ」では、小学校の児童たちに見てもらうことや参加してもらうことを重視しました。正しい手洗いや、なぜ薬は水で飲まなければいけないかなどの疑問を解決でき、さらには健康意識の向上につながることができたと思います。

おくすりをみんなで楽しく知ろうプロジェクトⅡ

薬学部生と横路小学校の児童たち

成長度

1．活動当初は、どのような課題に直面し、それを乗り越えるためにどんな苦労がありましたか。

私たちが当初考えていた企画と小学校側が要求するものが異なっていたことに苦労しました。

私たちは当初薬について、正しい服用について伝えようと考えていましたが、当時小学校ではインフルエンザが流行していた為、受け入れ先の横路小学校は、衛生中心（手洗いなど）の内容を望んでいました。その為、自分達の伝えたいことと、相手の求めていることの両方の希望をかなえることは難しいことが分かり、それが課題になりました。

2．その課題を、どのような工夫や努力で乗り越え、成果をあげることが出来ましたか。

打ち合わせを続けることで乗り越え、今回の成果につなげることができました。

小学校側の要望であった衛生という課題を、まず実験という形で児童たちの興味を高める土台にし、そこから私たちが企画していた薬の内容につなげ、高められた興味が薬の相互作用の実験によって更に高められた実感を得ることができました。

その結果、児童達から実験が印象に残ったとアンケートに反映されました。

3．自分たち（チーム）が一番成長したところは、どこですか？
理由もお願いします。

今回私たちが成長したと思うことは、自信を持って説明することができるようになったことです。

企画を立ち上げた段階では、メンバーから意見が出ることはあまりなく、誰もが他人任せな雰囲気でした。しかし、横路小学校を訪れる日が近づくにつれ、メンバーから様々な意見が出てくるようになり、この企画はきっと児童たちが興味を持ってくれると思えるようになってきました。

自信を持って説明する、そのためには間違ったことを教えないように繰り返し学び、準備すれば結果が出せることを体験できた。

私は、その点が今回一番成長したポイントではないかと思います。

構成メンバー

薬学科　４年　神田 雅人、北川 俊一、澤井 怜志、塚田 絵梨、山本 浩二郎、税所 孝一郎、小林 千浩

３年　皆川 麻恵

２年　酒井 恵、杉村 直紀、茶木 佑介

１年　森田 美咲、加賀田 あさ美、渋川 法子、小野 真莉菜、井居 萌